様式3

令和 4 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学 校 番 号 18

福岡県立戸畑工業高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	鍛錬とほめて人格を陶冶し、次代を担う自律心と思いやりの心をもった心身ともにたくましい、創造的・実践的な産業界をリードする工業人の育成		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
本校は、「戸工版デュアルシステム（以下DS）」と「得意技コース制」をブランドとしている。創立84年となる本校は、北九州一円の産業界の発展に寄与する工業人の育成を行ってきた。これまで、企業との繋がりの歴史の中、長期企業実習において最新技術や熟練技術に触れる「戸工版DS」を平成15年度から地元企業に協力を得ながら推進し、本校の3年間のキャリア教育の中心として実施している。 また、1年次に機械・電気系、建築系のそれぞれの基本的内容を学んだ後、2年次から興味・関心・適性・進路希望に応じて選択できる「得意技コース制」（機械・電気系では、機械科：機械技術コース、自動車技術コース、電気科：電気技術コース、電力管理コース、情報技術科：情報通信コース、ロボット技術コースの6コース、建築系では、建築科：築築技術コース、建築デザインコースの2コース）による実践的・体験的技能教育を推進することによって大きな成果をあげている。 昨年度はコロナ禍のため「戸工版DS」が実施できず、代替行事として「キャリアガイダンス」を実施した。本年度は地元企業の協力のもと、コロナ禍においても実施可能な新たな「戸工版DS」への再構築を図る。また、各学科コース等による実践的・体験的な教育活動を更に推進することをとおして、生徒に実社会で求められる資質能力を身に付けさせることを目標とする。	各教科・科目において観点別評価を充実させ「指導と評価の一体化」を図り、新しい時代に必要な資質・能力を育成する。	○各教科・科目において育成すべき観点ごとの指導目標及び内容と、評価基準を一体的に検討することで授業改善を図る。	A
		○「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、ICTの活用等によるわかる授業の創造、個に応じた学習指導の工夫、家庭学習の定着を図る。	
		○教科指導方法等の課題の解決を図るために、教科内、学科内、学年内で生徒情報を共有するとともに、授業改善を推進させるカリキュラム・マネジメントを実践する。	
	キャリア教育の推進及び特色ある教育活動（戸工版デュアルシステムや得意技コース制）を充実させ、個々のニーズに応じた進路実現を図る。	○各学年と教科及び学科が連携し、「キャリアパスポート」を活用した3年間を見通した計画的、組織的なキャリア教育を推進するとともに進路指導体制を構築する。	
		○戸工版デュアルシステムによって、生徒の自己発見と自己改善がより図れるように、受け入れ先企業や保護者との連携のもと更に教育体制を強固なものとする。	
		○学年と学科・コースの連携を図り基礎的・基本的学習内容を身に付けさせるとともに探究的な学習、ものづくりや資格取得を推進する。	
	望ましい集団活動をとおして心身の調和のとれた発達を図るとともに、人権感覚を育成し、いじめのない学校づくりを推進する。	○教育活動全体をとおして、挨拶やコミュニケーションを大切にし、生徒の実態把握と情報共有に努めたきめ細かな教育活動を推進する。	
		○生徒の主体的な特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）を推進する。また、部活動の活性化に努め、生徒の生きる力を育み、活力ある学校づくりを推進する。	
		○道徳教育と人権教育を充実させ、生徒の規範意識や自尊感情、思いやりの心の育成に努め、いじめや暴力の無い学校環境をつくる。	
	保護者や地域と積極的に連携し、社会に貢献できる人材を育成するとともに地域から愛される学校づくりを推進する。	○地域からの正確な情報受信とホームページ等の充実を常に図り、地域への積極的な教育活動の情報発信に努める。	
		○ボランティア活動や関係機関、企業をはじめとする地域との連携及び交流による教育活動を推進する。	
		○PTA・同窓会との連携、中学校訪問・体験入学など中学生の受入、学校評議員制度の活用を図る。	
	風とおしの良い職場環境と安全・安心な教育環境を整える。また、「働き方改革」を推進し、効率的・効果的な教育活動に努める。	○計画的・組織的な教育活動を展開する中で、職員間の情報共有や安全点検を密に実施し、危機管理に努めるとともに環境整備を行う。	
		○各行事や業務に対する目的を明確にし、計画・実施・検証・改善のサイクルを意識しながら効率的・効果的な教育活動に努める。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価			次年度の主な課題
教務 企画広報 研修図書	各コースの専門性を高めるための技術、技能の確実な習得	各コースで学べる知識、技術を明確にし、進路を意識した説明会等を適切な時期に行い、2年次から目標を持って学べるようにする。	A	A	A	・観点別学習状況の評価が1年次からスタートし、評価基準の生徒への提示が不十分なところがあり、来年度以降、生徒への評価基準の提示方法など工夫をする必要がある。また、全学年とも学力が著しく低い生徒がいる。普段の授業や考査から学習理解度が計れるように、年間指導計画と連動できるような対応をしていく。 ・多くの授業において、ICT機器を利用した授業を展開しているが、様々なアプローチを試行し、より一層「わかる授業」を目指して授業改善できるようにICT活用研修等も活用していく。 ・「1人1台端末」が導入されたことで、授業の中で授業のICT化を通して、授業のDX化を進めていく。
		普通科主任、及び工業科主任と連携し、計画的に資格を取得させ、各科の専門性が高められるようにする。	B			
	主体的に学習に取り組む意欲や態度の育成と、確かな学力の育成	観点別評価の評価基準を作成し生徒に提示する。観点別評価を活用し、個に応じた学習指導の充実を図る。	B	A		
		学習の遅れがちな生徒の把握と情報共有を図り、早期に適切な指導を行う。	A			
	学んだ知識や技術を活用し、自ら考えて行動できる力の育成	授業や実習で身につけた知識や技術を教科横断的に活用できる場面を設定し、ICT機器を活用した発表等の学習指導計画を立てる。	A	B		
		各授業でchromebook等のICT機器を積極的に活用し、わかる授業を展開する。また、学習成果の見える化に努め、生徒の学習意欲向上につなげる。	B			
	諸行事、会議等の効果的、円滑な運営に努める。	関係各署と連携し諸行事、会議等を円滑に行えるよう努めると同時に、状況に応じて速やかに対応できるよう準備する。	A		A	・本年度同様、さまざまな状況に速やかに対応していき、諸行事、会議等の円滑な運営を行うために関係分掌との連携を密にし、早期立案を行う。また中学校訪問、体験入学、学校HPのさらなる充実を図ると同時に戸畑駅内の掲示板の有効活用に努める。
	地域から愛される魅力ある学校作りを積極的に行う。	地域との連携及び情報収集、中学校訪問や体験入学の有効活用、HPの充実等に努め、魅力ある学校を発信する。	A			
	授業改善の推進とICTを活用した授業支援	研究授業の充実を図り、校内公開授業月間中の授業参観を推進する。	B	B	A	・ICT機器を用いた授業改善については、職員全体に対する年3回の授業研修を行ったが、授業におけるICTの活用は一部にとどまっている感がある。今年度末より「1人1台端末」が割り当てられるので、一層の活用推進を図るため研修を充実させていきたい。 ・前期の公開授業の実施方法を検討し、参加の促進を図る必要がある。
		ICTを活用した授業のための教職員支援に努め、Google Classroomの活用を推進する。	B			
	若年教員研修を始めとした校内研修体制の確立	様々な研修資料や情報の提供と校外研修会への参加を推進する。	A	A		
		研修を円滑に実施するための校内組織を確立する。	A			
	読書活動の支援	新入生オリエンテーションと年2回の朝読書週間を実施し、生徒の読書活動を支援する。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・今後もICTを活用したわかりやすい授業の工夫を進めていただきたい。 ・専門高校として、技術を習得させる指導をお願いしたい。 ・戸畑工業高校の魅力や就職実績など地元の中学校だけでなく遠方の中学校にもっとアピールし入学志願者の確保に努めてほしい。 ・コロナ禍における授業時数の確保や感染防止策を講じた授業をお願いしたい。

生徒指導 保健環境	魅力ある学校づくりと規範意識の高揚及びにマナーの向上	学校行事への積極的な参加と準備段階での各委員会の自主的活動を促進する。	A	A	A	・規範意識学習は、校内放送及びICT機器を使用した薬物乱用防止教室や性暴力根絶教室を実施した。次年度は講演会の実施方法や使用教室等を工夫して実施する。 ・生徒会活動は、年々生徒主体の活動が増加しており、生徒会を中心にした学校行事が実施できるよう教員のサポート体制を整える。 ・次年度も、生徒が主体的に活躍できる場をつくり、生徒会活動の充実と活性化を図る。	A	・日頃の指導の成果によって生徒の挨拶が素晴らしいと感じている。どのような指導をしているのか教えてほしい。また継続した指導をお願いしたい。 ・マスクの着用や手指消毒等の感染防止策については、国の指針として今後緩和される方向であるが、学校として生徒がマスク着用について強いられることが無いよう柔軟な指導をお願いしたい。 ・ボランティア活動については、戸畑区役所との連携で、積極的に参加いただき感謝している。今後もお願いしたい。
		教育活動全体を通して、規範意識を高めさせるとともに、マナーの向上を図る。	A					
	生徒会活動のサポートと活性化及び充実	生徒会の組織づくりと自治力の向上を図り、生徒の自主性や自発性を育む。	A	A				
		学校行事の準備段階や集会時などにおいて、生徒会役員を主体的に取り組ませ、意識を高める。	B					
	総合的健康管理能力の醸成	保健委員や美化委員が主体となり、安全・衛生・健康について自己管理能力を高める活動を実施する。	A		A	・マスクの着用、手指消毒の徹底を図り、感染症への感染予防対策を講じる。 ・ 委員会活動やボランティア活動においては、1年次よりリーダー育成の視点で指導し主体性を育む。 ・職員間や外部専門家・機関との連携を密に図り、生徒の心身の不調や悩みの早期発見のための支援体制づくりを推進する。		
	要支援生徒の理解と支援体制の確立	保護者、教職員、専門家、地域の関連機関などと連携を図り、教職員間の共通理解を強化し生徒の支援体制を推進する。	A					
	ボランティア活動の推進	ボランティア活動を通して生徒の自尊感情を高めるとともに、地域社会に貢献する。	B					
	感染症対策の徹底を図る。	HR、学年集会において、マスクの常時着用、手指消毒,、黙食等、指導の徹底を図る。	B					
進路指導 デュアル システム	生徒一人ひとりが希望進路の実現に向け、学力の向上や個性の伸長を図り、自主性を育み、自己決定能力を高める。	（1年生） 進路について関心を高め、希望進路を明確にし、適切な進路計画を立てる能力を育む。	B		B	・「学年別進路指導計画」を見直し、各学年で行う進路行事について系統化を図る。 ・キャリアパスポートを活用し、目標設定、振り返りを行わせながら適正に応じた進路決定を図る。 ・進路ガイダンスを通して進路を決定する能力を育成する。	B	・就職・進学状況について知りたい。 ・地元就職者を増やし、北九州市を盛り上げていただきたい。 ・北九州で働く人材確保のために、協力企業の発掘を進めていただきたい。 ・デュアルシステムは人材育成の観点から大変良い取組であると思う。 ・デュアルシステムの内容を検証し充実させて欲しい。
		（2年生） 目標とする進路を実現するために必要な知識や資格を身につけ、希望進路の実現へ向けて努力する態度を育む。	B					
		（3年生） 能力や適性に応じた進路を決定し、その実現に向けて取り組む。	A					
	戸工版デュアルシステムを通した自己改善力の育成	自己の課題を発見し学校生活においてそれを解決できるよう、デュアルシステムの事前、事後の指導を充実させる。	A		A	・課題発見アンケートをもとに自己の課題を発見しデュアルシステム後の学校生活に活かしていく。 ・次年度は、工場見学後の事後指導を充実させ工業人として働く意味の大切さを理解させる。		
	勤労観・労働観の育成	工場見学やデュアルシステムを通して働くことの意味や意義を理解させ、社会性を身に着けさせる。	B					
人権学習	人権が尊重された安心・安全な学校づくりの推進	いじめ対策・教育相談委員会や養護教諭等との情報共有や必要に応じた外部組織との連携を行う。	B	B	B	・昨年度の差別発言を受け、人権・同和特設授業を学年ごとのリモート形式から各クラス担任団による実施とした。指導案の作成が担当者任せであることや,動画やパワーポイントに頼りがちであるなど、まだまだ改善すべき余地はある。しかしながら、各クラスで生徒の反応を見ながらの特設授業が展開されつつある。生徒の人権意識を向上させるために、教員が積極的に研修に参加できる態勢を構築する必要がある。	B	・学校生活に限らず生徒を守っていける仕組みづくりが必要ではないかと思われる。 ・引き続き人権意識を高める学習を行ってほしい。
		学校生活アンケート等を定期的に実施するとともに、生徒の状況観察や生徒の実態を把握し、全職員で愛情ある指導体制をつくる。	B					
		日常的に人権意識を高めるため、HR活動や学校生活全体で人権教育を行う。	B					
	生徒、職員の人権感覚を高めるための組織的な取組を図る。	教職員の人権感覚を高めるため、計画的な校内研修を充実させる。	B					
学年	（1学年） 道徳を重視した社会性教育の取り組みを充実する。 課題設定能力の育成	授業を大切にした雰囲気作りに努め、学力向上を図る。	A		A	・学年集会を通して規範意識の向上と協働して行動することの大切さについて身につけさせることができた。また礼儀や周囲に目を配ることの大切さを学ばせることができた。 ・進路学習や戸工版デュアルシステム・学年集会を通して自己の進路について考える機会を多く与えたことで自己進路の実現に向け自己課題を設定し努力する姿を見ることができた。次年度は、修学旅行の成功に目標を置き、学校行事などで生徒自ら行動できるよう、担任・学年団と連携を図り教育環境を整える。	A	・それぞれの学年に見合った具体的な方策を立てておくことは必要だと思われる。 ・脱マスク等、新型コロナに対応する考えは個人により差異があるので、新入生にもうまく対応していく必要があると思う。 ・生徒達の人間的成長にはレクリエーション的要素を持ったものの実施も必要である。楽しみながら学ぶ仕組み作りについても検討してほしい。
		挨拶やお礼など対人マナーを身につけさせる。	B					
		1年次から積極的に進路に対する意識付けを行う。また、自分の課題を設定し、解決に向けて努力する姿勢を育てる。	A					
	（2学年） 自分自身を見つめ、自分の成長を高めるために積極的に学校生活に取り組める生徒の育成	デュアルシステムやキャリア学習ノートを活用したキャリア学習の推進により、将来への明確な目標を持たせる。	B		B	・学年集会などで来年の進路へ向けて目標設定を行うよう指導してきたが、生徒の意識の高まりにつながっておらず、定期考査での欠点者数の改善等に至らなかった。 ・授業中や休み時間など落ち着きのない様子が見受けられ、特別指導も複数件発生している。 ・学年団の一層の団結を図り、進路決定へ向けて、きめ細かい指導を行う。		
		修学旅行、体育大会などの学校行事において、自分自身の役割を全うすることにより、自尊意識を高める。	A					
		全ての授業において、自己の課題を解決する能力を養うことを意識して取り組ませる。	B					
	（3学年） 新しい時代に主体的に対応し、積極的に社会に貢献できる人材の育成	全生徒が自分の役割を意識し、クラスや学校に貢献できる主体的活動を推進する。	A		A	・生徒進路指導説明会や進路保護者説明会は、内容を見直して取り組みを行うことができた。今後は取組内容の更なる充実を図り、その効果を向上させる。 ・学年集会の定例化を図り、学年としての取組の成果や改善点について指導する。実施できない場合であっても、個別指導や巡回指導などによって、随時適切な指導を行う。 ・学校行事等が中止された場合であっても、様々な機会を通して指導できる体制やその内容を準備する。		
		進路実現を目指す過程の中で、自己発見と自己改善を繰り返しながら新しい社会に主体的に対応する能力を育てる。	A					
		日常的に人権意識を高めるため、HR活動や学校生活全体で人権教育を行う。	B					

機械 電気系	（機械科）			A	・服装点検は徹底することが出来たが、実習工場内の整理整頓については、不十分な箇所があるので5Sに対する意識付けをさらに行う。 ・放課後も遅くまで面接練習をするなどにより、昨年に続き就職希望者の1次受験者全員の内定をいただくことが出来た。 ・溶接競技で県大会優勝・九州大会準優勝という結果を残すことが出来た。来年度はさらに上位を目指す。
	安全教育と5Sの徹底	実習開始時の服装点検を徹底し、作業中の安全に対する意識を高める。また工場の整理・整頓や工具の管理に努める。	B		
	資格取得と進路実現	進路実現に向け、多くの資格取得にチャレンジさせ、希望する進路達成を目指す。	A		
	ものづくりと地域貢献	ものづくりの技術向上を目指し、各種ものづくり大会への積極的参加や出前授業による地域貢献に取り組む。	A		
	（電気科）			A	・実習時に事故等は発生しなかったが、服装点検が徹底できていない時もあったので徹底したい。 ・卒業後の自己実現ののために基礎学力の向上と早期のキャリア意識を自覚させる。 ・電気工事士の合格率の更なる向上をめざし、補講の精選と効率化を行う。
	安全意識の徹底	5Sの徹底と服装確認、工具・機器の点検により安全意識の向上を図る。	A		
	地元産業界から求められる人材の養成	専門分野に興味関心が持てる指導を行い、地元産業界で活躍する人材を養う。	A		
	資格取得意識の向上	第二種電気工事士の合格率の向上と更なる有用な資格取得の受験を促す。	B		
	（情報技術科）			A	・授業や実習においてICT機器を積極的に活用することで、個に応じた学習支援と学習意欲の向上につながった。次年度も生徒の学習効果が高められる指導方法を考えていきたい。 ・希望進路実現に向けた早期の情報提供と個別の面接指導を充実させた結果、昨年並みの高い就職内定率を達成できた。次年度の課題として、学習意欲に乏しい生徒が専門学校に進学するケースが増加している。よって3年間を見通したキャリア教育と面談を行ない、生徒自身の最適な進路についてしっかり考えさせたい。
	安全教育の徹底	「情報技術科実習の心得」に基づき、ルールを守って安全に実習に臨むことが最優先であることを徹底する。	A		
	計画的、組織的な教育活動の推進	定期的な科会議等を実施し、計画的に業務を行う。また、生徒状況の情報共有を図り、気になる生徒については連携して早期対応を行う。	A		
	資格取得の推進	得意技コースに沿った取得目標資格を定め、計画的に受検指導を行うことで合格率を向上させ、生徒の自尊感情を高める。	B		
	学習指導におけるICTの積極的活用	ICTを用いた授業に積極的に取り組み、生徒の学習活動を支援することで、わかる授業を実現する。また、自己の観点別評価が適切であるかを常に確認する。	A		
建築系	（建築科）			A	・実習や課題研究において大きな事故や怪我がなく作業が行えたので、次年度も安全第一で実習や課題研究を行う。また、担任と科の職員が協力し、今年度も就職1次試験の合格率が100%であったので、来年度も職員が協力して、1次試験の合格率100%を目指す。 ・今年度も戸畑消防署のご協力により地域の幼稚園や福祉施設にベンチやフラワースタンドを寄贈することができた。来年度は地域貢献活動20周年目の節目となるので、今後も継続しながらさらに発展させていく。
	安全教育の徹底	5S+2Sを主体的に実践させ、工業人として必要な資質・能力の育成に努めるとともに、安全作業の徹底を図る。	A		
	ものづくりによる地域貢献	地域貢献活動及びものづくり教室等の充実を図り、社会に貢献する姿勢と態度を育てる。	A		
	資格取得の推進	各種資格取得に向け、組織的な指導体制を構築し、合格率の向上を目指すとともに、学習習慣の定着を図る。	B		
事務室	予算の効率的な執行と安全な学校環境整備	効率的に予算を運用し、生徒が安心して学べる教育環境づくりに取り組む。	A	A	・物価高騰の影響により積極的な分権予算の組み替えを行い、効率的な予算運用を行ったが、次年度以降更なる物価高騰が見込まれるため職員のコスト削減意識の啓発を図り、生徒の学習環境整備に努めたい。

A	・産業人、工業人としてDX化（デジタルトランスフォーメーション）や、GX化（グリーントランスフォーメーション）脱炭素化やカーボンニュートラルについての知識を高める学習を行ってほしい。 ・AI技術が進歩し社会が大きく変化している中、工業高校としての役割は重要である。 ・企業が求める人材育成に努めてほしい。特に北九州市の活性化のため、地元企業との連携において、地元企業が求める人材の育成に力を入れてほしい。
A	必要性の高いものから選択していくことが求められると思う。生徒にとって何が必要なのかしっかり吟味し、適切な予算執行を今後も心掛けてほしい。

評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・ICTを活用したわかりやすい授業の工夫を進めるとともに、専門高校としての知識や技能を習得させるための指導を徹底する。（ICTを活用した授業改善）
・生徒の特性等を把握し、適切で迅速な対応を心がける。（・個別最適な学び、個に応じた生徒指導の充実）
・コロナ禍の影響等による求人数の減少に対して、生徒への適切な進路指導を行う。（アフターコロナを見据えた支援体制の充実）
・関係機関との連携によるボランティア活動を継続する。（ボランティア活動の継続及び意識啓発）
・デュアルシステムの内容を検証し充実させるとともに、地元北九州で働く人材確保及び協力企業の発掘を進めていく。（戸工版デュアルシステムの充実・発展）
・本校の魅力である就職実績や得意技コース制、資格取得等について、中学校や地域へ積極的に情報発信していく。（広報活動の充実及び志願者確保）